

### 三十三行のお別れのメッセージ

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大と、長期に及んだ臨時休校を経て、感染防止が徹底される中で学校が再開しました。運動会や学園祭、修学旅行、入学式、卒業式、そして入学試験の実施も大きな課題となりました。全てに学校現場と事務局が共に悩み続けた一年でした。先生方も児童生徒も本当にかんばったと思います。心から感謝申し上げます。私は外に出ることもほとんどなく、学校訪問も遠慮がちになり、先生方に話ができる機会をあまり持てない一年でした。

そのため本日ここでは学校の先生方に向けてのメッセージを兼ねて挨拶させていただきたいと思います。私は学校教育における自分の信念として「学校の生活」「先生の背中」の二点について一年前の就任会見で申し上げました。なぜこの二点なのかを説明すると就任会見と同じ話になりますので省略します。この二点を中心に機会あるごとに話したいと思っていましたが、感染症対策で本当にたいへんな学校現場に向けてそんな悠長な話はなかなかできませんでした。

しかしどんな状況であろうと、本当に大切なことは日々の暮らしの中にそれとなく紛れ込んでいます。というよりも懸命に生きる私たちの日常の中にしっかりと入っている、そして私たちはそこから自然に学んでいるのだと思います。

一点目の「学校の生活」ですが、そこには数々のドラマがあります。運動会や学園祭などの学校行事だけでなく何の変哲もない平常の日々にもドラマはあります。子どもたちのいつの間にか成長した姿に驚く、それも大きなドラマです。そして二点目の「先生の背中」ということでいえば、感染拡大の不安の中での防止策の徹底に先生方が一生懸命取り組んでくれました。身近でがんばる大人の姿に接した子どもたちがそこから何も学ばなかったとは私には到底思えません。

私たちは何かを得ようとか、人に見せるためとか、そういう意図を離れて無心でがんばる人の姿を見るのが好きです。教員が無心で児童生徒の指導にあたる、子どもたちとの生活を楽しむ、それができれば自然にそこに教育が行われているのだと思います。教員の仕事には予期せぬ意外な展開があります。がんばっていればきっと心から喜べる場面に出会うこととなります。さりげなくがんばり、粘り強くがんばり、そしてささやかな幸せを実感するのだと思います。

私は退任後も何らかの形で子どもたちを励まし続けたいと思います。「任期が一年で終わるのは残念ではありませんか」といろいろな人から言われます。「きちんと受け継いでいくことが大事で、私のささやかなこの人生には一年で十分です」と答えています。一年の任期だからこそ、昨年私の年齢で教育長に就けたのでしょ。これからも、学校の先生方の力を信じ、子どもたちの力を信じ、山梨県の教育の明るい未来を信じたいと思います。ありがとうございました。

令和3年3月30日

教育長 齊木 邦彦